

2022 年 1 月 31 日

2021 年度 聖路加国際大学大学院 看護学研究科
課題研究

女子大学生の無痛分娩に対する
認識および知識

A Survey of Female College Students'
Knowledge and Perceptions about
Anesthesia during Labor

20MW004

磯崎 美

要旨

I. 研究目的

現代の教育では、若い女性に対して妊娠・分娩についての情報提供が十分に行えていない現状がある。今後の情報提供に向けて、現状の女子大学生の無痛分娩への認識および知識について探索することを目的とする。

II. 方法

Google フォームを用いた記述的研究である。妊娠・出産経験がなく周産期分野の知識の学習のない女子大学生を対象とした。質問紙の内容は、「無痛分娩の認識、知識」、「分娩に対する情報提供のニーズ」であった。分析方法は、量的データについて、統計ソフト SPSS version24.0 を用いて単純集計・比較分析し、自由記載では内容分析を行った。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認【21-A057】を受けて実施した。

III. 結果

分析対象者は 73 名であった。無痛分娩について、95.9%が知っている、あるいは言葉だけ知っていると回答しており、その情報源としては、テレビ 59.4%やインターネット 47.8%が最も多かった。無痛分娩への認識としては、【痛みの緩和】、【身体的負担の軽減】、【無痛分娩のリスク】、【無痛分娩を選択することでの周囲からの印象】、【日本での普及度】、【出産の実感を損なう】、【無痛分娩の適応】、【無痛分娩の希望とイメージ】といったカテゴリーが抽出された。自身の分娩方法の希望としては、わからない 41.1%、無痛分娩 32.9%、自然分娩 26.0%であり、無痛分娩を希望する者が自然分娩を上回っていた。

無痛分娩の知識については、全体の平均点は 10 点満点中 3.42 点であった。また、医療系学部とその他の学部で比較した結果、知識の平均得点に有意差はみられなかった(医療系学部 : 3.54 点、その他の学部 : 3.26 点、 $p=0.680$)。

分娩についての情報提供のニーズとしては、全体の 8 割以上が情報提供を求めている。その内容の半数近くは、「出産に向けた準備や身体づくりについて」、「出産の流れについて」、「出産時期や適齢期について」であった。

IV. 結論

将来、妊娠・出産を控える世代に対してプレコンセプションケアなどを通して情報を提供することは、分娩に対して知識が少なく実感のない状態である本研究の対象のような女子大学生に対して効果的であると考えられる。